

ひめだ高宏ニュース

NO.1080

15.11.24

日本共産党 和歌山市会議員

ウガイ手洗で風邪引きこい「注意せよ!!」

市役所のあちこちで「ハナゴエ」の人に出会います。みなさんも風邪引きには「注意せよ!冷えこんでしまいましたが、私、ひめだ宅では、まだ暖房器具を使ってません。部屋に散らばった片物を片付けてから暖房器具を使いたいと思っておりますが……ちよっと?!

貴志川線の支援継続を発表

11月18日(水)市・交通政策課は「貴志川線存続支援について」を発表。その内容は、次のとおりです。貴志川線が安全に運行を継続するため、H28(2016)年度から新たな10年

間、和歌山市、紀の川市及び和歌山県で財政的な支援を、和歌山電鐵が貴志川線の運行を継続していくこと、基本的な合意に達しましたので、12月議会において債務負担行為の設置を

上程します。
○支援内容
貴志川線が安全に継続運行するため、老朽化した設備を整備する費用に対して和歌山市、紀の川市及び和歌山県で支援する。

(1)支援対象
国の補助制度が対象として、設備の更新及び修繕(設備例…レール、枕木、踏切保安設備など)

(2)支援の上限額(10年間)
2億4790万円

【内訳】
県 4億5466万円
和歌山 5億1561万円
紀の川 2億7763万円

☆全体事業費(10年間で約18億7千万円)の3分の2

フツのフツの人々



各自自治体で支援。
各自自治体間は、現行の基本自治体間による支援額の割合に応じて分担。
☆残りの3分の1は、国の補助金を活用。

今週のフツのフツの人々 (その26)

赤カブ食べて株価の計!!

市役所では、お昼の12時にNHKのニュース放送が短時間流されます。そのニュースが日本共産党市議団の「お弁当の時間」の始まりとなります。テーブルには、各人が視察先で買って来た「ご飯の友」が並んでいます。なかでも大人気は、その時々には受け嬢・岡本さん手作りの「ご飯の友」で、まよふは「赤カブ漬け」が出ていました。「赤カ

ブルと言えは、フランキ一塚の赤カブ換車を思い浮かべて、ちよっと年を感じてしまいます。

その赤カブを食べたから中村あさと議員が「郵貯の株価は上がっているんでしょ?うか」と聞いたのです。「エッ?株に興味があるの?」と問い返すと「一般的な世間話として」と中村議員。こゝろで世間話で「株」の話をしたことない私にはマンガのネタにしか...



ひめだ高宏

2005 (H17)	192.2
6 (H18)	211.4
7 (H19)	211.8
8 (H20)	219.0
9 (H21)	217.0
10 (H22)	217.1
11 (H23)	218.2
12 (H24)	216.6
13 (H25)	229.8
14 (H26)	227.9

(単位は万人)

大運動実委會の対市交渉

11月17日(火)午後、市内の労働組合や民主団体などでつくる和歌山市大運動実行委員会の対市交渉に日本共産党市議団も参加。私ひめたは2会場に分かれた話し合いの第2会場(同和平和、産業・環境・まちづくり、農業・水道、中小業者振興)に行きました。国の対策法の終了で同和

戦争法廃止の新しい政府を

11月22日(日)午前10時半から、日本共産党和歌山市南後援会が、メッセ高松前で「戦争法廃止の国民連合政府の実現」をめざす署名宣伝行動を行いました。

象に同和事業を続けています。これが「差別の温存にほかならない」という指摘をなせ受け止められないのが不思議です。

参加者は、共産党のポスターや共産党のプラスターを持ち、南後援会の山本会長、山形事務局長、竹田さん、つるたご徳義と私ひめたがマイクで訴えました。

子ども食堂

「子ども食堂」のこと

いま日本では、教育の格差、食困の連鎖が広がり、子ども6人に1人が貧困状態にあります。そんな子どもたちに美味しい食事・幸せな時間・地域とのつながりを無料

で格差を提供する「子ども食堂」の試みが全国で広がっています。先日、打田町で行った「子ども食困について考える講演会」に参加した際、和歌山市で「子ども食堂」を立ち上げた方の取り組みを聞きました。学生ボランティアと一緒に、地域の子どもたちがホッとできる居場所になっているように思いました。地域や学校、



坂口 美子
Miki Terakoya
(参院選区)

行政など連携をとりながら支援につなげていくことが重要です。簡単なことではないけれど、みんなでアンテナを高くし、この子も安心して育つことができる社会をつくってきたいと思っています。

潮流

11.21 山に遊びにきた3人の男の子が、もっと仲良しになろうと、それぞれに国の名刺を付けて同盟しようという

果同盟の理想主義との合「。昨年亡くなった児童文学者の古田定日さんが紹介しています。日常にある差別や偏見を見逃してないで、この呼びかけです。『7822の仲間やつを足すと皆殺しになる』。小学校の算数で教諭がこんな語呂合わせをしていたことが問題になっていきます。本人は反省していますが、及ぶ影響への無神経さが怖い。『君たちに憎しみという贈り物はあげない』。パリのテロで車を走らした仏人ジャーナリストが犯人に向けてつづったSNSが共感を呼び起しています。幼い息子に憎しみを抱かず世界に目を向けて生きてほしい、と。古田さんが胸に刻んでいた「平和を素手で守り得る人間をつくる」ことに海を願います。

15. 11. 21 山に遊びにきた3人の男の子が、もっと仲良しになろうと、それぞれに国の名刺を付けて同盟しようという。これも、いびりっこもなし。対等につきあひ、同じ権利で参加できる同盟です。八百屋の小僧だった三吉は「みんなと同じお友だちになれたこと」がうれしい。戦前の児童雑誌に発表された北川千代の童話「世界同盟」です。掲載時に削られましたが、1人ずつに付けた国名に千代は「朝鮮」を登場させます。当時、石川啄木が「地図の上 朝鮮国にくまぐまると 星をぬりつゝ 秋風を聴く」と詠んだように朝鮮は日本の植民地でした。『啄木のたび』に寄り添う心情と差別のない社会・国際社会をめめた『世

赤旗

日刊紙
3497号
11月21日
10月21日
10月21日